

## 平成27年度滋賀県原子力防災訓練(結果)について

滋賀県地域防災計画(原子力災害対策編)に基づき、住民屋内退避・避難・スクリーニング、緊急時モニタリングなどの原子力防災訓練を、地域住民の参加のもと、長浜市との合同により実施しました。

### 1 目的

- 原子力災害に係る緊急時応急対策について、関係計画、マニュアルおよび実施要領に定められた対応手順等の確認および検証を行う
- 県および関係市ならびに防災関係機関職員の原子力防災対策に係る能力の向上を図る
- 地域住民の原子力防災対策に係る意識・理解の向上を図る

### 2 実施日時

平成27年7月12日(日) 7時30分～12時

### 3 主催

滋賀県および長浜市

### 4 参加人数および参加・協力機関

(1) 参加人数 28機関 809人(うち地域住民503人、主催者を含む)

#### (2) 参加・協力機関

内閣府、原子力規制庁、陸上自衛隊第3戦車大隊、陸上自衛隊第3後方支援連隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第12高射隊、自衛隊滋賀地方協力本部、滋賀県警察本部、長浜警察署、木之本警察署、近畿管区警察局滋賀県情報通信部、湖北地域消防本部、(公社)滋賀県放射線技師会、緊急被ばく医療機関(長浜赤十字病院、大津赤十字病院、滋賀医科大学医学部附属病院、市立長浜病院、長浜市立湖北病院、彦根市立病院)、(一社)滋賀県バス協会およびバス事業者、関西電力株式会社

### 5 訓練内容

#### (1) 訓練想定

- 関西電力美浜発電所において事故が発生。施設敷地緊急事態から全面緊急事態に至り、炉心損傷により放射性物質が周辺環境に放出。
- 本県UPZ圏内の一部地域において、空間放射線量率の実測値が $0.5\mu\text{Sv/h}$ 、 $20\mu\text{Sv/h}$ を超過。

#### (2) 訓練項目

##### ア 災害対策本部等本部員会議運営訓練(県単独訓練)[会場:県庁]

○災害警戒本部(1回)、災害対策本部(2回)開催【写真①】

- ・収集情報(モニタリング情報、気象情報、関西電力株式会社からの通報・報告)の共有、状況認識統一
- ・各種情報・状況を踏まえた対策・対応の協議および決定



写真① 災害対策本部本部員会議(県庁)

- イ 広報訓練（県単独訓練）[会場：県庁]
- 県政記者クラブへの提供資料の調製（2回）
  - 記者説明（模擬記者会見）の実施【写真②】
  - SNS（フェイスブック、ツイッター）による情報発信文の作成



写真② 模擬記者会見（県庁）

- ウ 屋内退避・住民避難・スクリーニング訓練（県・長浜市連携訓練）
- [会場]
- ・ 鏡岡中学校、余呉体育館（避難集合場所）
  - ・ 余呉小学校（避難集合場所、原子力防災講習会会場）
  - ・ 長浜ドーム（スクリーニング、原子力防災講習会会場）

- 住民屋内退避
- 避難集合場所の設置・運営【写真③】
- 住民避難（一時移転）【写真④】
  - ・実災害での最大規模の住民の移動を想定し、半日で503人の避難をバス14台で実施  
車両内訳：バス事業者9台、関西電力株式会社2台、陸上自衛隊2台、航空自衛隊1台
- 避難中継所（スクリーニング会場）の設置・運営【写真⑤、写真⑥】
  - ・初めて長浜ドームに避難中継所を設置し、大規模なスクリーニング体制（10レーン）を検証
  - ・避難中継所運営本部の設置
- 原子力防災講習会等（専門家による放射線の基礎知識と避難行動の説明、医師等による安定ヨウ素剤の説明）



写真③ 避難集合場所への避難（余呉小学校）



写真④ 避難中継所への移動（鏡岡中学校）



写真⑤ 避難中継所運営本部（長浜ドーム）



写真⑥ 避難者のスクリーニング（長浜ドーム）

## エ 緊急時モニタリング訓練（県単独訓練）

【会場：県庁、湖北合同庁舎、高島合同庁舎、衛生科学センター】

- モニタリング要員参集連絡の実施
- 県緊急時モニタリング本部の設置・運営【写真⑦】
- 緊急時モニタリングの実施【写真⑧】
  - ・実施内容指示(伝達)、結果報告
  - ・可搬型モニタリングポストの展開（湖北2台、高島4台設置）
  - ・モニタリング情報共有システム（RAMISES）による測定結果の集約・整理
  - ・環境試料分析
- モニタリング要員の被ばくおよび汚染管理



写真⑦ 緊急時モニタリング本部（県庁）



写真⑧ 可搬型モニタリングポストによる測定

## 6 主な成果と課題

### (1) 災害対策本部等本部員会議の運営について

#### ア 成果

- マニュアルに沿って状況認識の統一、住民防護のための対策・対応の決定といった一連の手順や流れを確認できた。

#### イ 課題

- 国や事業者からの情報が届かない、バスを確保しても運転手がいなかったりまたは道路事情が悪いなどの理由で動かせないなど、不測の事態への対応力を養う必要がある。

### (2) 屋内退避・住民避難・スクリーニングについて

#### ア 成果

- 住民移動およびスクリーニングに必要な時間、スペースおよび人員体制等のスケール感を把握できた。
- 避難中継所運営本部を設置したことにより、避難中継所における住民の受入れから避難所への送り出しまでの統制とスクリーニングの進行状況把握が可能となり、避難中継所を円滑に運営することができた。
- バス移動の待ち時間や移動時間を活用して、住民に避難行動や訓練の意義などを正しく伝えることができた。

#### イ 課題

- 避難中継所の運営をはじめとした、住民避難の実施に必要な人員数の精査や人員を確保する体制の構築が必要である。
- 避難中継所運営本部の活動内容を精査し、マニュアル化が必要である。
- バス運転手等に対する放射線防護の知識の一層の普及や防護資機材の整備など、バスと運転手を確保しやすい環境づくりが必要である。
- 長浜市、高島市両市で避難完了まで継続してスクリーニングを実施できるよう、交代要員を含めた人員と資機材の確保が必要である。さらに、今後、車両をスクリーニングする体制の整備を検討していく必要がある。



- 避難中継所内の住民誘導方法など、国の評価者から指摘を受けた事項について、マニュアルへの反映等が必要である。

### (3) 緊急時モニタリングについて

#### ア 成果

- 実施要領に沿った緊急時の手順と手法を確認できた。
- 測定・防護機材取扱いを修練するとともに可搬ポスト設置に要する時間の確認ができた。

#### イ 課題

- 国の緊急時モニタリングセンターからきめ細かなモニタリングを指示された場合などに対応できる人員体制や測定機器や防護具等資機材が必要である。
- 緊急時モニタリング本部が効率的に活動できる室内レイアウトの検討が必要である。
- 測定機器の不具合発生等に対応できるよう、取扱いの一層の習熟が必要である。